

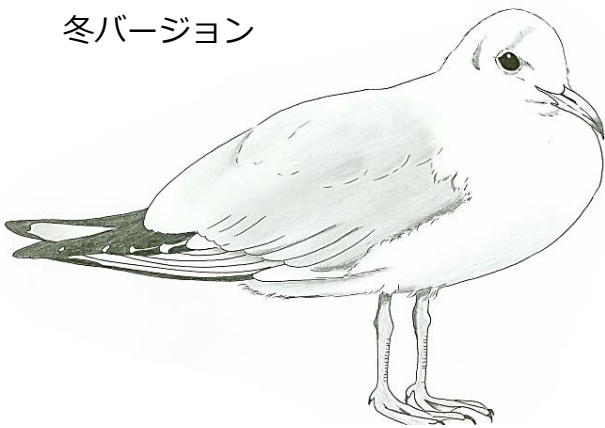


とねり自然図鑑

動物、昆虫や花などいろいろな自然の写真を「フォトクラブメビウス」の会員方にご協力いただき、毎月発行しております。写真にちなんだ「へえ～」という情報もお楽しみに。

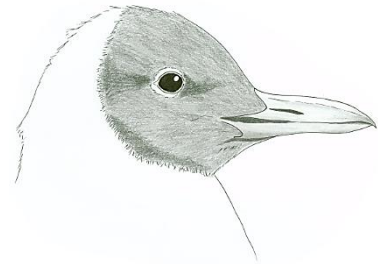
【撮影した竹内さんのつぶやき】ユリカモメがゆっくりと水面に着水する瞬間を撮影することができました。着水した瞬間の波紋とユリカモメの姿勢がとてもキレイに撮れました。

冬バージョン



名称：ユリカモメ（百合鷗、都鳥）
 学名：*Larus ridibundus*
 体長：約40cm（翼開帳時は約93cm）
 分布：日本全土
 主食：小魚
 天敵：ハヤブサなど猛禽類

夏バージョン



【伊勢物語】

○ユリカモメは別名、都鳥（みやこどり）とも呼ばれます。古典の知識のある方でしたら「ユリカモメの事だろう」と思うでしょう。

なぜなら、伊勢物語では「都鳥」のことを「白き鳥の嘴と脚と赤き、嶋（しぎ）の大きさなる、水の上に遊びつつ魚を食ふ」と説明していて、大きさや体の特徴、水面を泳ぎながら魚を食べている事などから、この鳥はユリカモメと推定されています。ちなみに、「都鳥=都の鳥」ということから、ユリカモメが1965年に東京都の鳥に指定されています。

名にし負はば いざ事問はむ 都鳥
 わが想う人は 在りやなしやと
 （在原業平 伊勢物語 第九段）

この言葉の意味は「都という名を背に負っているならば、いざ質問しよう都鳥。私が想う人はそこに健在しているのかどうか」と。ところが、江戸時代より前の「都鳥」は、特徴からカモメ科のユリカモメを指している事もあれば、ミヤコドリ科のミヤコドリを指しているものもあり、どちらなのか判らない場合の方が多いのです。

船競ふ 堀江の川の 水際に

来居つつ鳴くは 都鳥かも

（大伴家持 万葉集 卷二十 四四六二）
 「たくさんの船が競うように行き交う、堀江川の水際にやってきて鳴いているのは、みやこどりなのでしょうか」、これは万葉集の一文ですが、ここで指す都鳥もカモメ科のユリカモメなのかミヤコドリ科のミヤコドリなのかは定かではありません。

『舎人図書館にある参考資料の一部を紹介↓』

真木広造 『名前がわかる野鳥大図鑑』 永岡書店
 吉野俊幸 『ヤマケイポケットガイド6 野鳥』 山と溪谷社
 吉田巧 岩下緑 『鳴き声と羽根でわかる野鳥図鑑』 池田書店

毎月集めて、舎人地域学習センター・図書館のオリジナル図鑑をつくろう！